

とりもどそう

働きがい・教育の喜び



特別休暇大改悪反対1.20集会には、会場いっぱい組合員が参加

「子を産む女性は辞めよというのか」—府当局による、母性や育児のための特別休暇大改悪に、教職員の怒りが爆発しました。33996人分の署名、府民や全国の働く仲間との連帯。生休・妊娠障害を特別休暇として存続させたことは、たたかいの成果です。「教育こわし」、くらし切り捨ての府政を変えるため力を合わせましょう。

みんなの願い

教職員増やせ 30人学級実現を



学校現場の人手不足は深刻。長時間過密労働でみんなクタクタです。産休や病休の代替の先生が配置されず、「教育に穴」があく事態も広がっています。父母とともに声をあげましょう。

日高史代さん (大教組青年部長)

核兵器廃絶へ扉ひらこう

輝け 憲法9条



唯一の被爆国、そして憲法9条をもつこの国で、平和で核兵器のない世界を実現するため、いっしょに声をあげ一歩を踏み出しましょう。

原水爆禁止世界大会に参加した大教組代表団。(2009年8月)

変えられる



教育・仕事・社会

国民の運動と世論が作りだした新政権。高校授業料無償化、生活保護の母子加算復活など、いよいよ政治が動きはじめました。がんばれば要求が実ります。



大教組は文科省と直接交渉。全国学テ中止・教員免許更新制度廃止を迫る(09.11.9)



子ども・教育を考えあつた「教育のつどい大阪2009」。全体会では青年教職員が南中ソーランを披露(09.10.31)



國枝渉さん

(守口市立第四中学校)

公立高校入学枠拡大、高校授業料無償化

お金の心配なく学べる社会に

中学校の進路指導で最も心を痛めるのが、「お金の心配」。「せめて高校へ」と、保護者のなかには無理をしてお金を工面される方々もいらっしゃいます。運動がきりひらいた入学枠拡大、授業料無償化で、高校に行けない子ども、中退する子どもが少なくなることを期待しています。

府立支援学校4校の新設に道ひらく

父母とのつながり大切にしたい運動を

「学ぶための教室がないなんて人権侵害に匹敵する」「この子らの笑顔を奪わないで」と支援学校建設を要望して十数年。今、学校建設の重い扉をこじ開けつつあります。それは父母との共同の運動の成果であり、そしてなによりも教職員組合運動の大きな成果です。



鈴木浩司さん

(府立寝屋川支援学校)